

逆鱗道の龍の伝説

右琉背橋ジョン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

僕が妄想したストーリーで、

主人公・逆鱗道龍一を中心とした戦闘ストーリーです。

目次

逆鱗道の龍の転校	1
逆鱗道の龍初めての戦闘	4
伝説の龍の知り合い	7

逆鱗道の龍の転校

キーンコーンカーンコーン

先生「えー、今日から君たちに新しい仲間が増えまーす。」

ーわいわいがやがや

(転校生ってどんな子だろう)

(男かな?女かな?)

先生「騒ぐなく!静かに!では入って来い!」

ーガラガラガラ

「今日からこの学校に通う事になった!俺の名前は逆鱗道龍一!宜しくな!」

龍一(ここは結構人多いんだな、正直ここまで転校する事になるとは、今日から面倒くさそうだな)

先生「誰か質問はあるか?」

「ハイ!龍一君は何処から来たのですか?」

龍一「東京だ。」

「龍一君の好きなゲームは何ですか?」

龍一「のび太戦記ACEとマグナイトオブバリエーションだ」

「龍一君の好きな曲は?」

龍一「ココロジョジョル、すたーふあんくらぶ、

サクラぶれいどのBGM」

先生「質問はここまでだ!龍一には窓際の席座ってもらう。」

??「隣の席だね、宜しく龍一くん。私は花元 薫(はなもと かおる)」

龍一「おう!宜しくな薫!」

先生「さて!転校生も紹介した事だし、お前たちにはもっと重要なお知らせがある!」

「何ですか?」

先生「それは、2日後に此処に新しい担任が来る!理由は俺の引退

で、他のクラスも手の空いている教師はいないのでな！いつその際新しい教師にここの担任を任せよう！といった経緯だ！」

「ハイ！」

先生「何だ？」

「その経緯ぐだぐだ過ぎませんか？」

先生「これはもう決まった事だ！ぐだぐだとかはつきりしているとかは、まったく関係無い！」

「ハイ！」

先生「何だ？」

「何で教師を止めようと思ったんですか？」

先生「お前達が暴れすぎるからだ！」

『ええ!?!』

先生「冗談だ」

『えええええ!?!』

先生「つと！言うわけで質問はここまでだ！」

「待った！」（逆転裁判風）

先生「なんなんだ？」

「そんな勝手に終わらせる方向に、持っていかれても分かりません！
本当の理由はなんなんですか!?!」

先生「いいだろう、答えてやろう、それは、・・・」

先生「家族から海外で生活するかと誘われているからだ！」

『ズコー』

先生「何だ？その変なずっこけ方は」

「いやいや先生！それでやめるって正気ですか!?!海外での生活に憧れるのは分かりますが！そのためにわざわざ頑張って免許まで取った教師をやめるなんて正気じゃないですよね!?!」

先生「それは俺が決めることだ！正直言っただけでも教師は続ける！」

「・・・あっ！はい」

先生「ではこの学校の説明を転校生の龍一にするぞ」

龍一「はい宜しく願います！」

先生「まずくくくく（省略）くくくくと言うことで生徒達の可能性を上げ、実際の体験を重視したものがここの教育方針と言うことだ！」

『ZZZ…』

龍一「???’

先生「寝るな！」

『（。ロ。）！ハッ！』

先生「きくさくまくらく」○（*）—（*）○ゴゴゴゴ

龍一（ここは面白そうだな、ところで途中から何か聞こえなくなつてたけど、どういう事だろ？）

逆鱗道の龍初めての戦闘

よお！俺の名前は逆鱗道龍一！時欠（ときかけ）中学校に通う普通の（大嘘）中学生、まあ何かうまくやっている。ところであいつもこの学校に通っていると聞いてたんだが生徒の中にはいなかった。あいつ嘘ついてたのかな？

あつ！そうだ先生に聞いておかなきゃいけない事があつたんだつた！

龍一「先生！この前にこの学校について説明をしていにたよな？」

先生「ああ、そうだがそれがどうしたんだ？」

龍一「あの時何故か途中から聞こえなくなつてたんです」

先生「何！龍一！お前だけ寝ていないと思つたら聞いていなかっただど！」

龍一「はい」

先生「何処まで聞こえていたんだ？」

龍一「えくと確か」

《まず》《》と云うことで生徒達の可能性を上げ、実際の体験を重視したものがここの教育方針と云うことだ！》

だつたと思う」

先生「ほぼ全て聞いてないじゃないか!？」

龍一「そしていつの間にかみんなが寝てた」

先生「・・・それは、まさか」

龍一「何かしつてんですか？」

先生「聞こえなくなつていたとはいえ俺の話聞いていなかったのは事実！知つていても教えて堪るか！」

龍一「な！ええええ！」

先生（もし、無自覚で能力を無効化しているのだったらとんでもない化け物だぞ！まあ姿勢もまるで変えずに話が終わるまでずっとあの体制だと言うのはそう言う事だったのか、変人かと思つたぞ！）

先生（・・・もし、本当に校長のイタズラにかからず30分をたつ

たの5秒程度に感じていたなら・・・)

なんだったんだ？

まあ良いか、次は・・・戦闘の時間！

なんだこれ？

まあ教えて貰えば良いか。

くくく

さてマジでなんなのこれ？

普通に殴りあってるんだけど、武器とか超能力とか魔法とか当たり前のように使ってんだけどこいつら、なんなのまじで？

先生「次く龍一VS四方山」

龍一「先生ルールは？」

先生「対戦相手の背中を地につける事だ」

四方山「龍一くさっさと終わらそうぜくもちろんお前の負けでな
く」

龍一「よし！やってやらあ！」

先生「よいい、スタート！」

四方山「速攻で決めるぜ！蛇縄！」

龍一「ヌオ！蛇が絡み付いた！」

四方山「終わりだー！」

四方山は飛び蹴りをした。

龍一「ほい！」ブチッ

四方山「はああ！蛇縄を破っただと！」

龍一は飛び蹴りをする四方山の顔面を殴った。

四方山「痛てえー！」

龍一「んじゃ！終わらせるぞ！」

龍一「赤龍の咆哮おお！」

四方山「ぐはあー！テメエー！余所者なのに何で普通に似たような事ができるんだよ！」

龍一「その余所者に容赦なくあんな技を出してきた奴に言う必要はねえな」

先生「勝者逆鱗道龍一！」

伝説の龍の知り合い

龍一「よっしゃー！勝ったぜー」

次の日

——ざわざわ

龍一「ん？どうかしたのか？」

???「スツゲーよ龍一！ここにはじめてきたやつは能力の有無関係無くほとんどの奴が敗けるんだけどはじめてで勝つなんて！」

龍一「おっ、おう！それは誉められてるんで素直に嬉しいけど、あのー悪いけどお前誰？」

???「ああ！俺か！おれは手狭 渴家(てばた かついえ)、しっかしお前本当にすごいぞ！」

龍一「渴家か！宜しくな！」

《時は過ぎ放課後屋上で》

渴家「聞きたい事があつたら、何でも聞いてくれよ！昨日は話したくてもお前が呆然としていたところできつさと帰っちまったからヨク、困ってたんだぜ」

龍一「はは！悪い悪い、昨日は引越したばかりで、いろいろとする事があつたんで、あれが終わった後には、ソッコーで帰ったんだよ」

渴家「成る程確かに転校する事になって引越しもしてるはずだよな、お前の都合考えられなくてごめんな」

龍一「まあ時間は結構あるんだし、これから気長に思い出作ろうぜ！」

渴家 ??? 「おう！」

龍一「あれ？今なんかハモんなかった？」 Σ(。D。)

???「驚かせて悪いな、私は木本 和樹(このもと かずき)、君の試合拝見させて貰ったよ」

龍一「何かいろんな人に見られているって改めて考えると少し恥ずかしいな」(／／／▽／／／)

和樹「はは！私にもいろいろと聞いてくれ！・・・と言いたいところ

